

上田市教育委員会 11月定例会会議録

1 日 時

令和元年11月14日(木) 午後3時00分から午後3時35分まで

2 場 所

上田駅前ビルパレオ5階 上田市教育委員会 第一会議室

3 出席者

委 員

教 育 長	峯 村 秀 則
委 員	平 田 利 江 子
委 員	横 関 妙 子
委 員	綿 谷 憲 一

説 明 員

中澤教育次長、池田教育参事、石井教育総務課長、翠川教育施設整備室長、緑川学校教育課長、竜野生涯学習・文化財課長、西嶋人権同和教育政策幹、池田スポーツ推進課長、青木丸子地域教育事務所長、宮崎真田地域教育事務所長、宮越武石地域教育事務所長、水野第一学校給食センター所長、小泉中央公民館長、村山城南公民館長、清水上田市立図書館長

1 あいさつ

11月の半ばを迎え、あと一月半で令和元年が終わる。今年もいろいろなことがあり、大きな災害があった。被災された方々が年末年始をどのように過ごされるのか心配なわけだが、皆さんのボランティアに支えられて何とか進めていただけていると考えている。間もなく11月25日から12月議会が始まる。それを何とか乗り越えて新しい令和2年を迎えたいと思う。委員の皆さまにはまたいろいろとご指導をお願いしたいと思う。

2 協議事項 なし

3 報告事項

(1)「第14回人権を考える市民のつどい」実施報告について(生涯学習・文化財課)

資料1により西嶋人権同和教育政策幹説明(要旨)

資料の1をお願いしたい。先月14日に行われた「第14回人権を考える市民のつどい」について、1 概要、2 開催日時、3 会場については資料記載のとおりである。講演前の時間を使って、毎年4 市民団体の活動アピールということで今年は上田市多文化共生推進協会(AMU)の団体に外国市民を支える活動について紹介をしていただいた。5 講演会の内容については、今年は経済評論家の勝間和代さんを講師にお迎えして「自分らしく生きる」方法を一緒に考えようと題してご講演をいただいた。講演の内容について、『自分らしく生きる』ために明日に向かって何ができるのか、ご自身の持つ発達障がいやLGBTのカミングアウトについて触れながら、社会の多様性や性的マイノリティを例にご講演をいただいた。6 参加者の感想は、アンケートより抜粋し、445人の方からご提出をいただいた。先ほど申し上げたAMUの活動をはじめ知ったことで、外国人との共生で困っている自治会があるので教えてほしいという意見があり、実際にAMUさんから2件ほど各自治体へ行き講演または研修をしていただきたいとの依頼があったと報告を受けている。そのほか、黒いポツの上から2番目、3番目には人権の本来について、今回の講演会の企画はどのようなだったかと理解度を求めるような質問をしたが、445人中90%の方に理解が深まったということで回答をいただいている。また、黒いポツの後半記載の家族や他の人にも伝えていきたいと人権問題について何かできること、またやっていきたいことを答えていただくところでは、前向きな回答を70%の方からいただいた。目的の1つでもある人権について考えたい面では、非常に有意義な市民のつどいになったのではないと思う。なお、参加者数は資料の配布状況から約1,400人ということでさせていただいた。

峯村教育長

質問やご意見をお願いしたい。

平田委員

私も講演を拝見し講演会もすばらしかったが、上田市多文化共生推進協会の活動アピールが印象に残った。あらためて、上田市行政、また教育委員会は市民団体AMUとどのように関わっているのか教えていただきたい。

西嶋人権同和教育政策幹

教育委員会から直接何かをしていることはないが、人権男女共生課が窓口になって活動をしている。

平田委員

公民館活動においても多文化共生の取組がされているが、更に各団体とリンクしていただきたい。学校訪問では、外国籍児童生徒の学びの場を拝見するたびに、学びたいという子どもたちの思いに応えなければならないと痛感する。学習支援ボランティアの方の存在は大変重要である。

峯村教育長

今、平田委員からお話があったが、学校の外国籍児童が集まっている日本教室は学習支援ボランティアの方には大変協力していただいていると思う。今後はAMUの皆さんの力を借りて、外国籍の子どもたちの教育の補充にあてていきたいと考えている。11月は小中学校で人権同和教育月間である。11月だから行わなくてはならないということではないが、年間を通じて行っていかなくてはいけない。各学校では人権同和教育の授業参観を計画したり、研修会を行ったりしている。人権はとても大事な問題なのでこれからも教育委員会としてしっかりと取り組んでいきたいと思う。

全員了承

(2) 100周年「児童自由画展」の開催について (中央公民館)

資料2により小泉中央館長説明(要旨)

美術家、山本鼎が上田市神川地域において、「児童自由画教育運動」を提唱してから今年で100年目を迎える。この記念の年に100周年児童自由画展と題して現在の神川小学校の児童が描いた絵と当時100年前の神川小学校の児童を合せて展示することとなった。市民が山本鼎の功績、及び氏が唱えた運動の意義を振り返る機会とさせていただく。期間については12月3日(火)から12月25日(水)までの23日間、時間は午前9時から午後5時としており、展示場所は中央公民館1階の展示室となる。展示数は、現在神川小学校に在籍しているすべての児童生徒の絵を525点、及び当時描かれた絵数10点となる。あわせて山本鼎の業績を示したパネルの展示を行う。また、市立美術館において企画展「農民美術・自由画100年展」との連携事業ともしており、互いのイベントの情報発信をもとより、市立美術館が進めている農民美術作品の1つである「こっぱ人形」100体を海野町、原町の商店街に飾るイベントへの協力や公民館では美術関連の講座の開催を予定している。本事業の実施にあたっては、神川小学校、神川・山本鼎の会との合同開催としている。

峯村教育長

今、ご説明のほかにサントミュージゼのことも含めてご質問、ご意見があればお願いしたい。よろしいか。

全員了承

(3) 城南公民館青少年育成事業について (城南公民館)

資料3により村山城南公民館長説明(要旨)

- 1 青少年育成事業の方向性は、公民館の運営方針として方針の柱の1つに「地域全体で子どもたちが健やかに育つ環境を作ること」を掲げている。具体的な事業の企画の際には、子どもが育ち、地域がつながることを目指し、様々な年代の方や各種団体と連携・協力して、様々な人との交流や学ぶ機会が得られるよう努めている。

2 実施事業については、夏休み、春休み、土曜日、日曜日を利用し実施をしている。（資料裏面参照）

3 成果、課題等については、

(1)重点事業として、ア 夏休み子どもチャレンジ広場、イ 城南子どもわいわい広場を重点事業としている。

ア チャレンジ広場は今年で4年目になる。お盆明けで親が仕事に行ってしまう、家が留守になるそのタイミングで小学生の居場所を設けている事業である。勉強、体験、昼食づくり等、年齢や世代、学校を超えて一緒に活動、交流する場であり、二学期に向けて生活リズムを整える機会にもなり、子どもたちの満足度が高く、保護者から高い評価をいただいている。今後、学生ボランティアを一定数確保する必要があること、また、昨年あたりから野菜を提供していただける地域の方もいらっしゃるから、地域の中でさらに支持を広げ、安定的に継続できる事業に育てていく必要があると考えている。

イ わいわい会議は平成15年から開催をしているが、小中高生と大人が話し合い、子どもたちの課題の解決に向けて交流や相互理解を図る場として、また、子どもたちを中心とした地域内の連携の重要性を再確認する場として開催している。平成29年度、30年には、ネットの安全利用について、小中高生と大人の話し合いにより標語を作成し、今年は小中高生が作画したカルタが完成したため、11月30日(土)に子どもわいわい会議を開催予定なのでカルタ取りを行う予定となっている。今後については、部活や習いごと等で忙しい中、大勢の子どもに参加を得ながら、定着を図っていくため、学校や保護者の理解や協力を引続き得ていくこと、また3年かけて完成したカルタの有効活用を図っていくことが必要と考えている。

(2) その他の事業については、年に1回から3回講座として実施しているものが多く、多様な魅力ある事業を実施し、できるだけ多くの子どもたちが公民館にくることを基本として、さまざまな年齢や立場の人と交流を図り、また子どもたち自身が楽しく満足感や学んだ成果が得られるように事業を行っている。ほとんどの事業が開始後2年から4年経過したところであり、今後事業の評価や見直しをしながら、多様な事業を継続させていくこと、また、中高校生を対象にしたものはあるが、実際には参加を得られていないことがあるので、関心をもっていけるように取り組んでいくことを考えている。

資料3の裏面をご覧ください。今年度実施済、あるいは実施予定の11事業を一覧で示している。参加者人数については、基本的には実施済みの事業は今年度の実績、人数の後ろには*（アスタリスク）の印がついているものは、今後実施予定のため昨年度の実績を示したものである。

峯村教育長

ご意見等あればお願いしたい。

横関委員

3(1)重点事業のア 夏休み子どもチャレンジ広場に関しては、メディアが取り上げるほど高い評価を得ている。テレビでも拝見させていただいた。保護者から高い評価についてはどのようなご意見がでているか。

村山城南公民館長

保護者の方からアンケートをとり代表的なものを紹介したいと思う。「子どもたちが毎日楽しみに参加していた」、「帰宅後、一日の様子を嬉しそうに話してくれた」、「帰宅後とても満足そうだった」、「3日間、年上の人たちが1つの仲間になって、努力しながらとても有意義で前向きに参加をしていた」、「初日にきた子の自信を感じる表情だったのが印象的だった」等のご意見をいただき、共通しているのはまた来年も開催してほしい、参加させてほしい等のご意見をいただいている。

横関委員

さまざまな人と関わることで、前向きな気持ちや自信を感じるようになることはとても素晴らしいことだと思う。夏休みチャレンジ広場は、特に8月17日、18日、19日の3日間で二学期が始まる学校へ向けての準備期間として日にちの設定もよいと思う。今後さらに継続していき、もっと多くの子どもたちが公民館でこのような活動が出来ると良いと思った。そのほかに、いの城南子どもわいわい会議について、青少年育成事業だとどうしても講演会等が多くなってしまふことが他の公民館でもあると思う。わいわい会議は子どもたちと直に接し、子どもたちの意見を聞きながら、様々な方と話し合おう会議だと思うが、一方的にただ講演を聞くだけよりも、直接子どもの考えや話に耳を傾けたりする事によって子どもたちの現状を知る機会になると思う。各公民館で、子どもたち、大人、双方の意見交換をする機会を設けていただくことは青少年育成事業に大事なことだと思う。このわいわい会議をモデルとして、各公民館でもこのような形の事業を企画運営していただく事が必要と思われるのでお願いしたい。

小泉中央公民館長

月一回館長会等を行っている。ぜひ参考にさせていただきながら、もちろん地域性ということもあるので同じ物とはいかないが、地域の特性を活かしながら進めていきたいと思っている。

綿谷委員

地域全体で子どもを育てる中で、資料の中にもあるパネルディスカッションやグループトークを通した全員参加型は素晴らしいことだと思う。その中で子どもたちが何を思い考え、発信しているのかそこが非常に大事なところだと思う。だいたい大人が決めているようなことが普通のやり方になってしまうと思う。子どもたちの考えを実現させていることもその地域の力だと思う。のびのびと育つためにも子どもたちの考え、やりたいこと、遊びということも非常に大切なことだと思う。横関委員が言われたように、いろいろな地域でこのようなことが行われていけば良いと思う。子どもたちの出番をいろいろと増やしていくことは非常に大事なことだと思う。このようなことを上田市全体で行っていけるとまたこの上田地域が子どもたちを支援していく理由になっていくので積極的に活動をお願いしたい。

平田委員

わいわい会議で小中高生が作成したカルタ、城南公民館だよりに掲載されているが、「目の前の画面じゃなくて人を見る」等、良い標語が考えられている。とても手の込んでいるカルタであるが、その場で子どもたちが作ったものなのか。

村山城南公民館長

この標語については、グループトークの中で作っている。だいたい6、7人のグループの中で標語を作成して1年目に半分、2年目に半分と話し合いをして作られたものである。

平田委員

カルタの絵もそうなのか。

村山城南公民館長

絵については、各小中高校に願いをして夏休みあたりに描いていただいている。

平田委員

とても興味深い作品ができあがったと思う。城南公民館だけではなく、ぜひ作ったカルタを有効活用していただきたい。幼少期からのメディアリテラシー教育については、前回の会議でも市長部局と連携して一歩踏み込んだ活動をお願いしたいと話をさせていただいたが、こういった取り組みを広げて、自ら子どもたちが考える時間をつくっていただけるとありがたい。

峯村教育長

私も資料を読ませていただき、チャレンジ広場は2学期に向けて生活のリズムを整える機会とあるが、実は不登校になるきっかけが夏休みの後に多くある。やはり、夏休みが長いと休み癖がついてしまうこと、宿題を済ませていないから学校へ行きたくない子がいる。その点をクリアしていただいているととてもありがたいと思う。

全員了承

(4)スポーツ関係市長表彰について(スポーツ推進)

資料4により池田スポーツ推進課長説明(要旨)

教育委員会の推薦基準に基づいて3候補者が記載されている。先般、市長部局の部長会議で協議いただいたものである。2推薦理由については記載のとおりである。候補者については全て上田西高等学校の生徒である。佐々木風雅選手、曾根敬次郎選手、西川大智選手はレスリング競技の選手である。佐々木選手についてはインターハイにおいて優勝、また国体大会においても2位、フリースタイルで2位、グレコローマンスタイルの全国大会で3位という状況である。今回2回目の表彰受賞である。続いて、曾根敬次郎選手はグレコローマンスタイルで第3位であった。西川大智選手についても国体で第3位ということである。和田彩未選手については、アーティスティックスイミングはシンクロナイズドスイミングと呼ばれていた競技である。1年生戸倉上山田中学校出身で上田西高等学校入学ということである。国体でデュエット優勝という成績を修めている。以上、4名に対して教育委員会として市長表彰制度に推薦をさせていただく。

峯村教育長

今、スポーツ関係市長表彰について報告をいただいた。ご質問ご意見があればお願いしたい。

全員了承

(5)第47回ふれあい・人権の集い2019について(丸子地域教育事務所)【説明なし】

資料5

(6)寄付の状況(学校教育課)【説明なし】

資料 6

(7) 行事共催等申請状況について

(学校教育課 生涯学習・文化財課 スポーツ推進課)【説明なし】

資料 7 - 1 7 - 2 7 - 3

(8) YA っ HO - ! 6 5 号 (生涯学習・文化財課)【説明なし】

資料 8

(9) 公民館だより (各公民館)【説明なし】

資料 9

峯村教育長

次第(5)から(9)までご説明はないが、ご質問ご意見があればお願いしたい。

横関委員

資料 7 - 1 の行事共催等申請状況についてだが、受付番号 5 7 の西部公民館で行う西部まちづくりの会が講演会を開催し、学校教育が変わることに対してご家庭で興味のある方がいらっしゃる。教育委員会としては学校教育がどう変わっていくのかを保護者の方はまだ理解されていない。それを理解する機会もないことで、このまま教育委員会で学校教育はどう変わっていくのかということを知らせるそのような機会はないのか。

緑川学校教育課長

学校教育が変わるといことはどのような内容なのか。

横関委員

その話はまだ伺っていない。どのように話されるかと思うが、東御市の現教育委員さんでもある方。学習指導要領も変わっていく。その中で道徳教育が導入され、英語教育、ICT等、学校教育の動向を保護者たちはあまり理解していないと思う。どのように変わってきているということで興味がある。また不安もある。そういった点で教育委員会として教育が変わってきているということをごどこかで伝えることはないのか。

緑川学校教育課長

講演会の内容に見当がつかなくて返答ができないが、今、横関委員さんがおっしゃられたように、カリキュラムやほかにも変わってきているところがある。そのあたりのタイミングについては広報等でお知らせしていきたいと考えている。

池田教育参事

大事な点をご指摘いただいたと思う。学習指導要領が変わるので、ただ表面的に外国語が教科化されてくるといったような断片的な知識があっても、一体子どもたちにはどのように力をつけて授業自体がどう変わってくるのかのことは、ぜひご理解をしていただかなければと思う。先ほど緑川課長が申し上げたように、何らかの広報等で学力状況調査の結果だけではなくて伝えていく必要があると思った。そのほか、4月に年度が替わり学校がスタートするときに、校長が全校の保護者に向けて話をする機会がある。そのようなところで、うちの学校は

どのように取り組んでいくとおそらくどの校長も触れていくのではないかと思う。学校側が特色のある学校づくりはもちろんだが、どのように求められて、これからどのように学校が変わっていくのかということについても触れていくような機会もしていく必要があると思った。校長たちにも機会があれば伝えていきたいと思う。また授業参観等もあるのでそのようなところでも観ていただきたいと思う。

横関委員

また紙媒体、ネット等でわかりやすくお伝えしていただければと思う。

峯村教育長

不易流行という言葉がある。いろいろな部分が断片的に変わっていくことがある。しかし、不易なものはそうそう動かないものと思う。学校訪問をして授業をご覧いただいているが、やはり授業をどのようにしていくかが大事なところである。たとえ、学習指導要領がどのように変っていきこうが子どもたちと教師とのやり取りは大事に考えなくてはいけない。授業の出発点というのは、児童生徒の理解と教材研究だと思う。次の時間にどういう学びの時間を作り上げるのか、これはずっと昔から変わっていないことである。変わることはばかりに気を取られないで、変わらないものも大事にしていきたいと考える。

横関委員

ぜひ、教育長のお考えもお出しいただくとありがたいと思う。

峯村教育長

ほかにはいかがか。よろしいか。それでは本日の定例会を終了する。

全員了承

閉 会

教育委員会会議規則第 2 1 条の規定により署名する。
